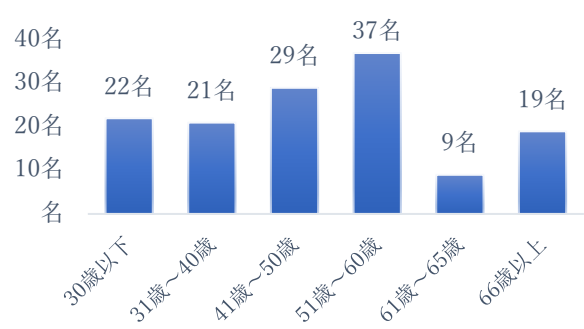


1. 職員状況(令和8年3月31日現在)

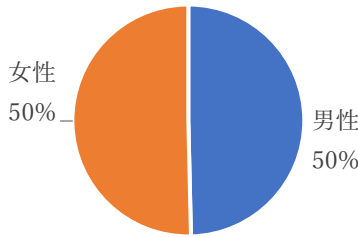
	施設長	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	機能訓練指導員	看護職員	介護職員	介護補助員	事務員	環境整備	送迎	宿直員	合計
桜ヶ丘	1	2	2	1	1	6	40	1	2	5	0	6	67
荏田	1	2	2	1	0	3	47	2	1	4	3	4	70

※職員数は非常勤(パート職員)を含む・派遣社員は除く

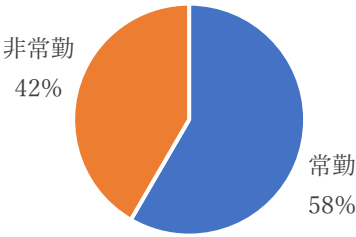
■職員年齢構成



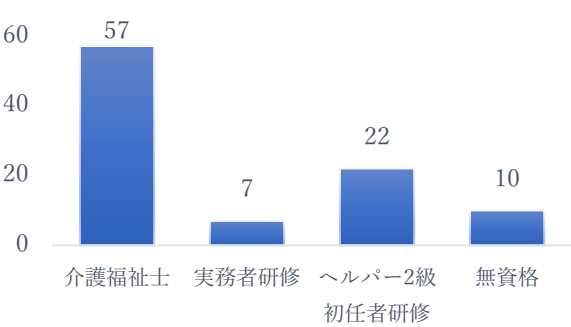
■職員男女割合



■常勤／非常勤割合



■資格者構成(介護職員のみ)



2. 令和7年度介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘実績報告

I 入居者個々の生活に合わせた介護について多職種連携を図り実践していく

令和7年度においては、各職種の専門的視点から、介護ソフトに記録された入居者お一人おひとりの情報を基に、適切に課題の抽出を行うことができました。また、日常生活の経過記録を継続的に確認することで、入居者の状態変化を早期に把握する取り組みも進めることができました。さらに、協力医療機関との連携においては、日常生活で見られた課題等について、往診や受診の機会を通じて相談・検討を行い、その内容を介護ソフトへ記録することで、関係者間での情報共有を図るとともに、新たな経過記録として蓄積することができました。

■苦情・相談受付

時期	区分	内容	申立人	対応
5月	特養	入居者の左耳下あざについて	家族	ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく
6月	特養	家族への連絡について	家族	ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく
7月	特養	入居者の左下顎あざについて	家族	ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく
8月	特養	訪問理美容の利用について	家族	ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく
11月	特養	入居者の左手第3指骨折について	家族	ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく
1月	ショート	居室環境について	家族	ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく

II 人材育成を通して職員の組織力の向上を目指していく

年間を通して、職員一人ひとりに必要な情報や研修内容を検討し、適切に参加を促すことができました。研修内容については、各職員の役割や習熟度に応じた内容であるか、または職員全体で共有すべき内容であるかを検討し、必要に応じて各種会議や委員会活動の場を活用して学習の機会を設けました。また、研修の実施や職員それぞれの視点によるマニュアルの見直しなど、施設全体に関わる課題についても、各種会議や委員会において継続的に検討を行いました。これらの取り組みを通じて、組織として必要な体制整備を進めることができ、施設運営の質の向上に寄与する結果となりました。

■施設内研修(スキルアップ研修)の開催

4月	褥瘡予防及び疾病予防	10月	メンタルヘルス対策
5月	尿路感染症	11月	感染症及び食中毒予防
6月	防災訓練	12月	非常災害対策
7月	法令遵守	1月	認知症及び認知症ケア
8月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止	2月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止
9月	事故発生の防止	3月	事故発生の防止

III 職場環境の整備を行い安全な環境づくりに努める

令和7年度の安全管理においては、建物に使用している各種扉や共用部の物品について、定期的な点検を実施するとともに、入居者が日常生活で使用する際の状況を確認しながら、故障や破損に対して必要な対応を行うことができました。これにより、不具合が生じた状態での使用による事故を未然に防止する役割を果たすことができました。また、新たに購入した物品については、各フロアやユニットにおいて使用方法を検討し、個別使用とユニット全体での使用のいずれが適切であるかを、利用状況に応じて判断することができました。これらの取り組みにより、施設全体として安全で適切な環境整備を進めることができました。

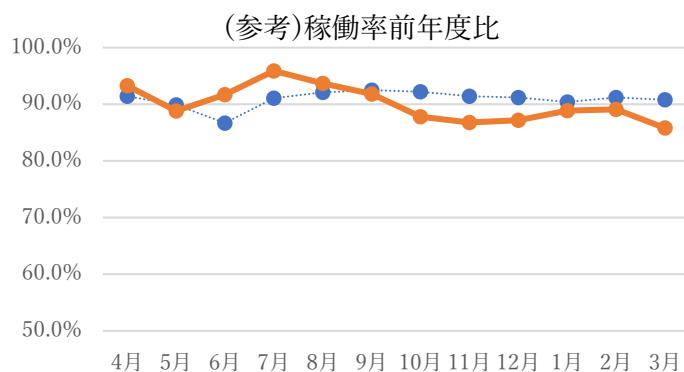
IV 持続可能な施設運営を目指し取り組んでいく

令和7年度は、目標としていた稼働率を達成することができませんでした。前年と比較して入院者が約2割増加しましたが、これは異常の早期発見や感染症への適切な対応を随時行った結果であり、感染拡大防止の観点からは協力医療機関との連携を十分に図ることができました。また、受診時に実施される検査結果や健康診断等のデータを基に、年間を通して協力医療機関と連携し、入居者お一人おひとりに応じた対応を行うことができました。地域交流スペースの活用については、住民主体の介護予防サービスの利用を継続することができました。さらに、「福祉の魅力を伝えるプロジェクト」への職員派遣、大和市高齢者福祉施設協議会による「高齢者施設取組発表会」への参加、職業訓練における補助講師の派遣など、地域との連携事業についても継続して取り組

むことができました。

■稼働率推移

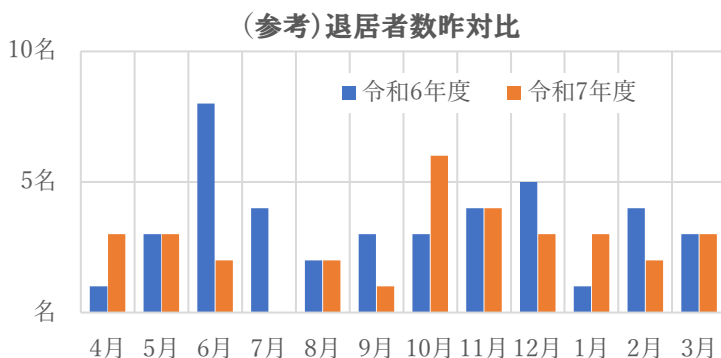
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	2798名	2752名	2750名	2974名	2905名	2754名
稼働率	93.3%	88.8%	91.7%	95.9%	93.7%	91.8%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2722名	2605名	2703名	2756名	2496名	2659名
稼働率	87.8%	86.8%	87.2%	88.9%	89.1%	85.8%



	計	
	(R7年度)	(R6年度)
延べ人数	32874名	33182名
稼働率	90.1%	90.9%

■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	3名	3名	3名	3名	0名	2名
退居	3名	3名	2名	0名	2名	1名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	1名	3名	2名	4名	3名	3名
退居	6名	4名	3名	3名	2名	3名



	計	
	(R7年度)	(R6年度)
入居	30名	40名
退居	32名	41名

5. 令和7年度短期入所生活介護スミル桜ヶ丘事業目標実績報告

I 居宅介護支援事業所や病院の地域連携担当への広報活動を継続する。空床ベッドを利用した空床型短期入所の積極的な活用により稼働率94%を目指していく

II 利用者並びに家族の課題の抽出から在宅生活に必要な個別性を把握し、安心で安全な介護サービスの充実に努める。また、利用にあたり楽しんでもらえる活動やレクリエーションの機会も検討し行っていく

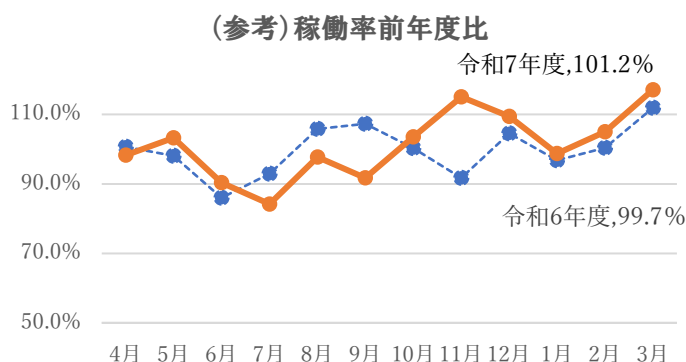
III 広報活動の継続により、地域が必要とする情報の収集に努め、求められるニーズに対応できる事業所を目

指す

短期入所生活介護において、目標としていた稼働率を達成することができました。その背景には、居宅介護支援事業所や病院の地域連携担当者との関係性を強化し、定期利用者だけでなく新規利用者の獲得につながれたことがあります。また、積極的に空床利用を活用した受け入れ体制の整備を進めたことで、利用希望に柔軟に対応できる環境を整えることができました。これにより、在宅生活への復帰を見据えた利用者ニーズに応じた介護サービスの提供が実現し、地域における短期入所の役割をより効果的に果たすことができたと考えています。

■稼働状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	24名	26名	29名	26名	28名	30名
延べ人数	296名	320名	271名	261名	303名	275名
稼働率	98.3%	103.2%	90.3%	84.2%	97.7%	91.7%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	34名	26名	32名	29名	30名	31名
延べ人数	321名	345名	339名	306名	294名	363名
稼働率	103.5%	115%	109.4%	98.7%	105%	117.1%



	計	
	(R7 年度)	(R6 年度)
実人数	93名	89名
延人数	3693名	3640名
稼働率	101.2%	99.7%

4. 令和7年度介護老人福祉施設スミール荏田実績報告

I 入居者個々の状況や状態に合った最適で質の高い介護サービスを提供する

嘱託医の変更を契機として、協力医療機関との連携体制の見直しと強化を図り、入居者の状態や意向に関する情報共有をより円滑に行える体制づくりを進めました。また、入居者本人およびご家族の意向確認の一環としてDNARに関する調査・確認を実施し、平時からの意思共有に努めました。新たに皮膚科訪問診療を開始し、専門的な診療機会の確保による健康管理体制の充実を図っています。生活支援の面では、横浜市の園芸体験モデル事業へ参画し、入居者が植物に触れ、育てる活動を通じて生活の生きがいや満足度の向上につながる取組を実施しました。また、コロナ禍以降制限していた外泊について、感染状況等を踏まえながら12月より再開し、家族との交流や地域とのつながりを維持できるよう支援しました。このほか、入居者の権利行使支援として不在者投票を実施し、社会参加の機会確保と意思尊重に努めました。

■苦情・相談受付

時期	区分	内容	申立人	対応
5月	特養	職員の対応について	本人	謝罪し接遇改善と指導を実施

5月	特 養	服薬方法について	家族	職員へ服薬手順の再確認と指導
5月	ショート	受診対応遅延と報告遅延	家族	状況説明し判断経緯と遅延を謝罪
5月	特 養	トイレが汚れている	家族	清掃の再指導とゴミ箱を設置し環境改善を実施
5月	特 養	衣類の記名位置が不適	家族	謝罪し記名方法の見直しを実施
5月	ショート	物品管理と居室の汚れ	家族	謝罪し物品管理と清掃の徹底指示
7月	特 養	与薬漏れ原因報告の遅延	家族	原因説明し報告遅延について謝罪
7月	特 養	入浴方法変更の不满	本人	謝罪し本人意向の再確認を実施
7月	特 養	記録内容の不備	その他	記録内容の見直しと職員指導実施
9月	特 養	外出時の薬の不備	家族	書面にて経緯報告し謝罪を実施
9月	特 養	使用済みオムツを放置	家族	謝罪し処理手順の再指導を実施
10月	特 養	食事内容への不满	家族	摂取基準等を説明し理解を求める
11月	特 養	訪問理美容の誤実施と誤請求	家族	謝罪し確認体制強化し再発防止に努める
12月	ショート	職員口調と帰宅時服装の不適	本人/家族	謝罪し接遇マナーの再指導
1月	特 養	食事量低下に対応不满	家族	体調説明し今後の方針を共有
2月	特 養	保険証渡し忘れ	家族	謝罪し確認体制強化し再発防止に努める
2月	特 養	転倒後の受診遅延	家族	経緯を説明し判断の妥当性と謝罪
3月	ショート	衣類紛失と連絡不足	家族	謝罪のうえ捜索を継続することとした

Ⅱ 「働きやすさ」と「働きがい」を高める施策を講じ人材確保・定着のための体制整備に力を注ぐ

業務の効率化および生産性向上を目的として、施設内で使用する各種ガイドラインやマニュアルの作成・整備を進め、職員が統一した対応を行える環境づくりに取り組みました。新たに2名の係長職を任命し、全フロアに責任者を配置する体制を構築し、職員のキャリアアップ機会を創出するとともに、各フロアにおけるマネジメント機能の強化や相談体制の充実を図り、働きやすい職場環境づくりにつなげました。人材確保の取組としては、求職者向けの施設紹介動画で、施設の雰囲気や職場環境、職員の働く様子を発信することで、幅広い層へ施設の魅力を発信し、採用活動における情報発信力の強化につなげました。

■施設内研修(スキルアップ研修)の開催

4月	法令遵守(個人情報/接遇)	10月	メンタルヘルス対策
5月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止	11月	感染症及び食中毒予防
6月	非常災害対策	12月	非常災害時の対応と業務継続(BCP)
7月	感染症及び食中毒予防	1月	認知症及び認知症ケア
8月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止	2月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止
9月	事故発生の防止 医療ケア(褥瘡予防)	3月	事故発生の防止

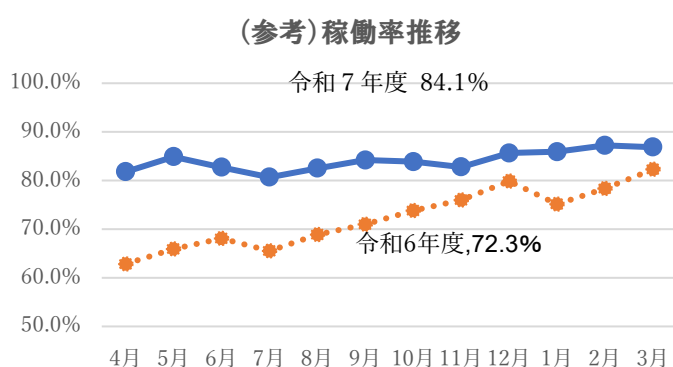
Ⅲ 月間稼働率94%を実現するとともに安定した運営のため時代の変化に適応していく。

入退居予定者の進捗状況や空床情報について多職種間で共有を図り、受入れ調整に努めましたが、目標とする稼働率には達しませんでした。一方で、申込センターとの連携機会を増やし、認知症等により長期入所困難な方についても積極的に受入れを行える体制整備を進めることで、新たな紹介や相談につながっています。今後も待機者情報の整理や関係機関との連携を継続し、安定した入居運営に向けた体制整備を進めてまいります。経営面では、中東情勢等の影響による物価・エネルギーコストの上昇が継続し、施設運営にも大きな影響を及

ばしています。そのような状況下において、購入物品の見直しを行い、コスト意識を持った運営に努めています。また、一部加算については新たな算定を開始し、安定した運営基盤の確保につなげました。衆議院選挙後の社会保障政策については先行き不透明な状況が続いていますが、制度動向を注視しながら、持続可能な施設運営に向けた対応と改善に継続して取り組んでまいります。

■稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	3190名	3421名	3226名	3251名	3325名	3284名
稼働率	81.8%	84.9%	82.7%	80.7%	82.5%	84.2%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	3380名	3229名	3452名	3462名	3175名	3501名
稼働率	83.9%	82.8%	85.7%	85.9%	87.2%	86.9%



	計	
	(R7年度)	(R6年度)
延人数	39896名	34304名
稼働率	84.1%	72.3%

■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	4名	5名	0名	5名	3名	2名
退居	3名	1名	6名	2名	2名	3名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	4名	7名	4名	1名	1名	3名
退居	3名	5名	3名	2名	3名	1名

	計
	(R7年度)
入居	39名
退居	34名

Ⅳ 地域社会に開かれた信頼され愛される施設とする

訓練校や職業紹介の場へ職員を講師として派遣し、介護の仕事への理解促進や福祉職の魅力発信の機会を設けました。介護現場での実践や専門知識を伝えることで、地域における福祉人材の育成および介護職への関心向上につなげられたと感じています。地域貢献活動の一環として、災害時の福祉避難所運営に協力できる体制づくりを進め、関係機関との連携強化を図りました。このほか、車椅子修理のボランティア受入れを実施し、入居者支援の充実を図るとともに、地域住民が施設活動に関わる機会を創出しました。

5. 令和7年度短期入所生活介護スミール荏田実績報告

I 利用者や家族にとっての価値・ニーズを把握してサービスを提供する。

利用申込時に利用目的やご家族の意向等を確認し、それぞれのニーズに沿ったサービス提供に努めました。利用中においても、在宅生活の継続を念頭に置き、安易な介護介入とするのではなく、利用者自身の残存機能を活かした支援を行うことで、心身機能の維持向上に取り組みました。また、提携薬局の協力のもと、短期利用者に対する服薬の一包化対応など、円滑に利用できる体制整備を進め、ご家族の負担軽減につなげました。さらに、契約時や利用開始時に使用する説明資料の見直しを行い、サービス内容や利用時の流れ等について、利用者・ご家族にとってより分かりやすい説明となるよう改善を図りました。

II 利用者や家族ごとに求められる多様性に対応して継続的な利用につなげる。

“また利用したい”と感じていただけることを目的として、季節感を取り入れたレクリエーション活動を毎月実施し、利用中の楽しみや生活の潤いにつながる取組を行いました。活動の様子は、広報通信や SNS 等を活用して発信し、施設での過ごし方を知っていただくことで安心感や信頼関係の構築に努めました。また、生活環境にも配慮し、各居室へ椅子を設置するなど、快適に過ごせる生活空間を意識した環境整備を進めました。

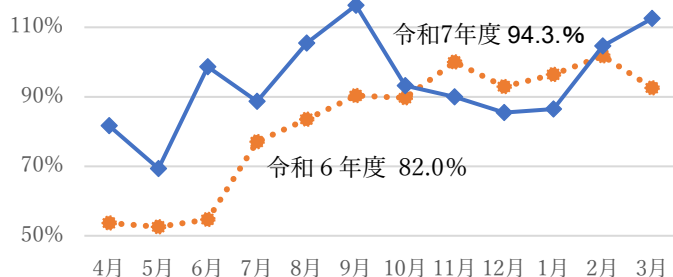
III 地域包括ケアシステムの一躍を担い月間稼働率95%の確保を達成する

ショートステイユニット独自で広報通信を作成し、関係機関への情報発信を行い、施設での過ごし方や取組を積極的に周知することで、信頼関係の構築と利用促進、継続利用につなげました。また、空床利用を積極的に活用し、問い合わせに対する迅速な調整・受入れを行うことで、年間稼働率について目標値に近い水準を維持することができました。さらに、緊急利用の相談にも対応できるよう受入れ体制の整備を進め、在宅生活を支える地域資源の一つとして、臨機応変なサービス提供に努めました。

■稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	245名	215名	296名	275名	327名	349名
稼働率	81.7%	69.4%	98.7%	88.7%	105.5%	116.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	289名	270名	265名	268名	293名	349名
稼働率	93.2%	90.0%	85.5%	86.5%	104.6%	112.6%

(参考) 稼働率推移



	計	
	(R7年度)	(R6年度)
実人数	110名	107名
延人数	3441名	2994名
稼働率	94.3%	82.0%